メッセージ　12

命の中で王として支配することによって勝利を得る生活をして、命の都としての新エルサレムとなる

聖書：ローマ 5:10，17，21．14:17-18．

マルコ 4:26-29．ルカ 17:21．マタイ 24:14

Ⅰ．真のクリスチャン生活は、勝利者の生活です。新約におけるすべての勝利者は王であるべきです。彼らはあふれるばかりの恵みとあふれるばかりの義の賜物を受けて、命の中で王として支配しています――ローマ 5:17：

A．神の定められた預言者また祭司として、わたしたちは王でもあって、神にわたしたちの中で、またわたしたちを通して、神のすべての敵を支配していただきます。新約の信者たちは、神のエコノミーにおける王、祭司、預言者の予表の成就であるべきです：

１．新約におけるすべての信者は救われて、王また祭司となっています。祭司が神のために語るとき、彼らは神のスポークスマン、神の代弁者となります。これらが預言者です――Ⅰペテロ 2:5，9．啓 1:6．20:6．22:3-5．Ⅰコリント 14:12，24-25，31。

２．預言すること（キリストを人々の中へと語り込むこと）は、わたしたちを勝利者にします。預言することは、勝利者の機能です――4 節後半．Ⅰペテロ 4:10-11．使徒 5:20 とフットノート 2。

B．もしわたしたちがクリスチャン生活において王の水準に到達していないなら、まだ正常な標準より低いのです。わたしたちは、キリストを享受していると言うかもしれませんが、どれほど、どの程度までキリストを享受しているでしょうか？

C．わたしたちがキリストを享受するのは、わずか「一インチの高さ」であるかもしれませんが、キリストは無限です。わたしたちがキリストを享受することは、王職の水準に達するべきです。わたしたちは恵みの上にさらに恵みを受けて、恵みにわたしたちの中で王として支配していただくに至る必要があります。それによってわたしたちは、神のさまざまな恵みの良い家令となることができます――ピリピ 3:13．ヨハネ 1:16．ローマ 5:21．Ⅰペテロ 4:10．エペソ 3:2。

D．神の全体的な救いは、わたしたちがキリストの命の中で救われて、あふれるばかりの恵みとあふれるばかりの義の賜物によって、この命の中で王として支配することです（ローマ 5:10，17，21）。義の賜物は、神の法理的な贖いが実際的にわたしたちに適用されることです。恵みは、わたしたちの有機的な救いのための、すべてに十分な供給としての神ご自身です。

Ⅱ．聖書の最後の書である啓示録は、勝利者に関する書です。第 2 章と第 3 章で、主はわたしたち、すなわち、わたしたちの偉大な父であるアブラハムの霊的な子孫である彼の信者たちに、彼の勝利者となるよう七重の召しを与えています（啓 2:7，11，17，26．3:5，12，21）。勝利者はサタンの大混乱をすべて征服し（参照、コロサイ 1:17 後半，18 後半，10）、神聖なエコノミーにおいて勝ち誇ります（ローマ 8:37．Ⅱコリント 2:14）：

A．神の観点から、人々には四つの主要な種族があります。それはアダムの種族、肉によ

るアブラハムの種族（創 13:16）、その霊によるアブラハムの種族（15:5．ガラテヤ 3:7, 29）、勝利者の種族です。わたしたちは信仰の霊を活用して、わたしたちが勝利者の種族に属していると宣言すべきです（Ⅱコリント 4:13）。

B．啓示録は、勝利者がいなければ、キリストには再来する道がないことを示しています。わたしたちはキリストがわたしたちの道であることを知っていますが（ヨハネ 14:6 前半）、キリストは彼の心の深みから勝利者たちに、彼らが彼の道であると告げます。勝利者たちが、キリストが再来するための道です（啓 19:7-9．詩 45:13-14）。

C．神があなたを今日の勝利者とし、あなたが王として支配する生活をするために、神にあなたを祝福していただきましょう。この唯一の祝福は、三一の神の永遠の祝福であり、ご自身をわたしたちの中へと分与して、わたしたちの享受とならせることです——民 6:22-27．Ⅱコリント 13:14．エペソ 1:3．ガラテヤ 3:14。

Ⅲ．わたしたちは命の中で王として支配して主の勝利者となるために、わたしたちが神聖で、霊的で、天的で、王的で、王なる命をもって再生されているということを見る必要があります。主は言われました、「神の王国はこのようなものである．ある人が地に種をまき」——マルコ 4:26．Ⅰヨハネ 3:9：

A．この種は神聖な命の種であり（Ⅰヨハネ 3:9．Ⅰペテロ 1:23）、信者たちの中へとまかれました。これが示しているのは、神の王国（主の福音の結果また目標）と、この時代における召会が（ローマ 14:17）、命の事柄、すなわち、神の命の事柄であるということです。その神の命は芽を出し、成長し、実を結び、円熟し、収穫物を生み出します（Ⅰコリント 3:6-9．啓 14:4，15-16）。

B．神の王国はキリストご自身です（ルカ 17:21）。人性における三一の神は（コロサイ 2:9）、神の王国の種、「遺伝子」であり、神の選ばれた民の中にまかれました。それによって神は彼らの中で成長し、彼らの中で生き、彼らの内側から表現され、発展して神の支配する領域となります（マルコ 4:26-29．Ⅰコリント 3:9）。

C．新約の教え全体の内在的な要素とは、三一の神が肉体と成って、彼の選ばれた民の中へとまかれ、彼らの内側で発展して王国になるということです。神の目標は、神の王国の完全な発展です：

1．福音書には、王国の種、遺伝子をまくことがあります——マルコ 4:3, 14. マタイ 9:35。

2．使徒行伝には、このまくことの増殖と拡大があります。それは、王国の種、遺伝子を受け入れた、何千もの種まく者たちによります——使徒 6:7．12:24．19:20。

3．書簡では、王国の種、遺伝子の成長を見ます——Ⅰコリント 3:6，9 後半．Ⅱペテロ 1:3，11。

4．この種の収穫は啓示録に見いだされます。そこには初穂と収穫物との刈り取りがあります——啓 14:4，15-16．マルコ 4:29．マタイ 13:39。

5．千年王国は王国の種（遺伝子）の極みまでの発展となります。そこでは御子が王であり、すべての勝利者が彼の共同の王、「王国の遺伝子を持つ人々」です——啓 20:6。

6．新エルサレム、神の永遠の王国は、四福音書でナザレ人イエスによってまかれた王

国の種（遺伝子）の最も満ち満ちた発展です――啓 21:2. 22:1, 3, 5. 5:10. 3:12. 11:15. 19:6．20:6．詩 146:10。

７．わたしたちは主と一となって王国の福音を人の住む全地に宣べ伝え、王国の種（遺伝子）を増殖させ、発展させて、この時代を終結させる必要があります――マタイ 24:14。

Ⅳ．経験において、命の中で王として支配することは、神聖な命の統治の下にいることを意味します：

Ａ．キリストは、御父の神聖な命の統治の下にいることによって命の中で王として支配することの模範です――参照、マタイ 8:5-13。

Ｂ．パウロは、生活と務めにおいて神聖な命の統治の下にいた者の模範です――Ⅱコリント 2:12-14。

Ｃ．あふれるばかりの恵みとあふれるばかりの義の賜物を受けたすべての信者は、神聖な命の中での拘束と制限を訓練する必要があります。王国の支配の下にある生活は、義と平和と聖霊の中の喜びとの生活です。このように生きることは、奴隷としてキリストに仕えることであり、そのような生活は神に喜ばれ、人にも良しと認められます――ローマ 14:17-18．参照、Ⅰコリント 12:3。

Ⅴ．申命記が啓示しているのは、正しい王がまず神の言葉によって教えられ、統治され、支配され、制御されなければならかったということです（申 17:14-15，18-20）。この原則は、召会の中の長老と、命の中で王として支配することを切望するわたしたちすべてについても同じであるべきです（Ⅱテモテ 3:14-17）：

Ａ．召会の行政を執行し、管理するために、長老たちは神の言葉で再構成されなければなりません（Ⅰテモテ 3:2．5:17）。その結果、彼らは神の統治の下に、神の支配と制御の下にいるようになります。

Ｂ．そのとき自然に、神は長老たちの決定の中にいるようになり、長老たちは神を代行して、召会の諸事を管理するようになります。このような管理が神治です。

Ｃ．エズラとネヘミヤのリーダーシップの下で、イスラエルの帰還した民は、神によって、神をもって、神の言葉を通して団体的に再構成されて、神の証しとしての国となりました。神の民を再構成することは、彼らを神の御言の中へともたらし、彼らを御言葉で浸透させることによって、彼らを教育することです――ネヘミヤ 8:1-18。

Ｄ．神の言葉はその霊と一です（ヨハネ 6:63．エペソ 6:17）。わたしたちが日ごとに神聖な御言を読むことを通して、神の言葉はわたしたちの内側で働き、その霊は御言葉を通して、神の性質を神の要素と共にわたしたちの存在の中へと自然に分与し、わたしたちが神で構成されるようにします。

Ⅵ．命の中で王として支配するために、わたしたちはまたその霊の統治の下にいる必要があります。ヨセフの生涯の記録は、その霊の統治の啓示です。なぜなら、その霊の統治は、円熟した聖徒の王として支配する面であるからです。それは命の中で王として支配し、神の王国の実際の中で神聖な命の拘束と制限の下にいる生活です。そしてそれはその霊

の他のどの面よりも高いのです――ローマ 5:17，21．14:17-18．Ⅰコリント 2:15-16．Ⅱコリント 2:13-14．3:17-18．Ⅱテモテ 4:22．啓 4:1-3：

A．ヨセフは「夢を語る者」（創 37:19）であり、神の見方によれば、神の民が命に満ちた麦束であり、光に満ちた天体であることを夢で見ました（5-11 節）。ヨセフの二つの夢は（7，9 節）、いずれも神からであり、地上での神の民の性質、地位、機能、目標に関する神の神聖な見方を、彼に明らかにしました。

B．ヨセフの夢は彼の生涯を支配し、彼の振る舞いを導きました。ヨセフが卓越してすばらしく振る舞ったのは、彼が夢の中で見たビジョンによって導かれたからです（参照、使徒 26:19）。彼の兄弟たちは怒りを爆発させ（創 37:18-31）、情欲にふけりましたが（38:15-18）、ヨセフは怒りを征服し、情欲に打ち勝ち（39:7-23）、命に満ちた束として振る舞い、暗やみの中で輝く天の星のように行動しました。

C．天のビジョンの下でのヨセフの生活は、マタイ第 5 章から第 7 章に記述されている天の王国の生活でした。彼はそのような生活をすることによって、王として支配するよう十分に用意されました。マタイにおけるこれらの章に啓示されている天的王国の憲法によれば、わたしたちの怒りは服従させられなければならず、またわたしたちの情欲は征服されなければなりません（マタイ 5:21-32）。

D．円熟した命の、王として支配する面の代表として、ヨセフは主の臨在を享受し、それと共に主の権威、繁栄、祝福を享受しました――創 39:2-5，21，23．使徒 7:9。

E．ヨセフは彼の兄弟たちに対して人の感情と情緒に満ちていましたが、自分自身と彼のすべての感情をその霊の統治の下に保ちました。ヨセフは自分自身を否み、自分自身を神の主権ある導きの下に完全に置き、もっぱら神と神の民との権益のために振る舞いました――創 42:9，24．43:30-31．45:1-2，24。

F．ヨセフは、新約で啓示されていることの生ける説明です。ヨセフは自己を否む人であり、彼には何の自己の興味も、自己の享受も、自己の感覚も、自己の野心も、自己の目標もありませんでした。すべては神のためであり、また神の民のためでした。ヨセフが自己を否んだこと、彼が神の主権ある御手の下に制限されたことは、王国の生活を実行するかぎでした――創 45:24．マタイ 16:24．歴代下 1:10．イザヤ 30:15 前半．ピリピ 1:9．Ⅰテモテ 5:1-2．Ⅰテサロニケ 3:12．4:9．Ⅱテサロニケ 1:3．ローマ 12:10．Ⅰヨハネ 4:9．ヘブル 13:1。

G．ヨセフの認識は、彼をエジプトに遣わしたのは神であったということでした。創世記第 50 章 20 節で、彼は彼の兄弟たちに、「あなたがたは、わたしに対して悪を図りましたが、神はそれを良きに図ってくださり」と言いました（45:5，7．50:19-21．参照、41:51-52）。これは、ローマ第 8 章 28 節から 29 節におけるパウロの言葉の実際です。ヨセフは、彼の兄弟たちが彼に行なったすべてのことを、神からのものとして受けました。ヨセフは自分に対して罪を犯した人たちを慰めました（創 45:5-8．50:15-21）。彼は何という恵み、何という卓越した霊を持っていたことでしょう！

H．わたしたちは「神聖な望遠鏡」を用いて、時間を見通し、新エルサレムを見つめなけ

ればなりません。そこには命に満ちた束と、光に満ちた星のほか何もありません。わたしたちは命において円熟すればするほど、ますます聖徒たちや召会について消極的に語らなくなります——参照、創 38:27-30．マタイ 7:1-5．Ⅰペテロ 3:8-9。

Ⅶ．わたしたちは命の中で王として支配することの目標を見て、それに到達する必要があります。わたしたちが命の中で王として支配し、神聖な命の統治の下で生きているとき、その結果は真の実行上のからだの生活が召会生活の中で表現されることです——ローマ 12:1-4，9-12，15-18．14:1-9．15:1-13：

A．わたしたちはキリストの中へと信じた者たちとして、神の愛する御子の王国の中へと移されました。召会生活の中で愛はまさります（コロサイ 1:12-13）。からだは愛の中でそれ自身を建て上げます（Ⅰコリント 8:1．エペソ 1:4．3:17．4:2，15-16．5:2）。わたしたちが何であろうとも、また何を行なおうとも、キリストの有機的なからだとしての召会を建造するために、愛が最も卓越した道です（Ⅰコリント 12:31 後半．13:4-8 前半）。

B．わたしたちは愛としてのキリストを持っていないなら、わたしたちのすべての語りかけは、命のない音を出す「鳴り響く鐘」や「騒がしいシンバル」のようです——Ⅰコリント 13:1。

C．召会生活は、警察署や法廷ではなく、霊的な子供たちを育てる愛の家、病気の者たちをいやし回復する病院、愛の中で人々を教える学校です——マタイ 9:12．Ⅱコリント 11:29 前半．ヨハネ 8:7，10-11．Ⅰコリント 9:22．ルカ 15:1-7。

Ⅷ．わたしたちは命の中で王として支配しているとき、恵みとしての内住するキリストにわたしたちの内側で王として支配していただき、「永遠の命に至」ります。これが、命の中で王として支配することの究極的完成です——ヘブル 4:16．**ローマ** 5:17，21：

A．ヨハネ第 4 章 14 節後半は言います、「わたしが与える水は、その人の内で源泉となり、湧き上がって、永遠の命へと至るのである」。

B．「へと至る（ローマ第 5 章 21 節では「に至る」）」は、目的地について語っています。永遠の命は流れる三一の神の目的地です。「へと至る」はまた、「となる（to become or to be）」を意味します。

C．流れる三一の神、すなわち、命の源泉としての御父、命の泉としての御子、命の川としてのその霊を享受することによって、わたしたちはあふれるばかりの恵みを受けて、神の命の総合計としての新エルサレム、すなわち、命の都となりつつあります。こういうわけで、わたしたちが命の中で王として支配することの結果と究極的完成は、神の永遠のエコノミーの唯一で究極の目標である新エルサレムであるべきです。

© 2022 Living Stream Ministry